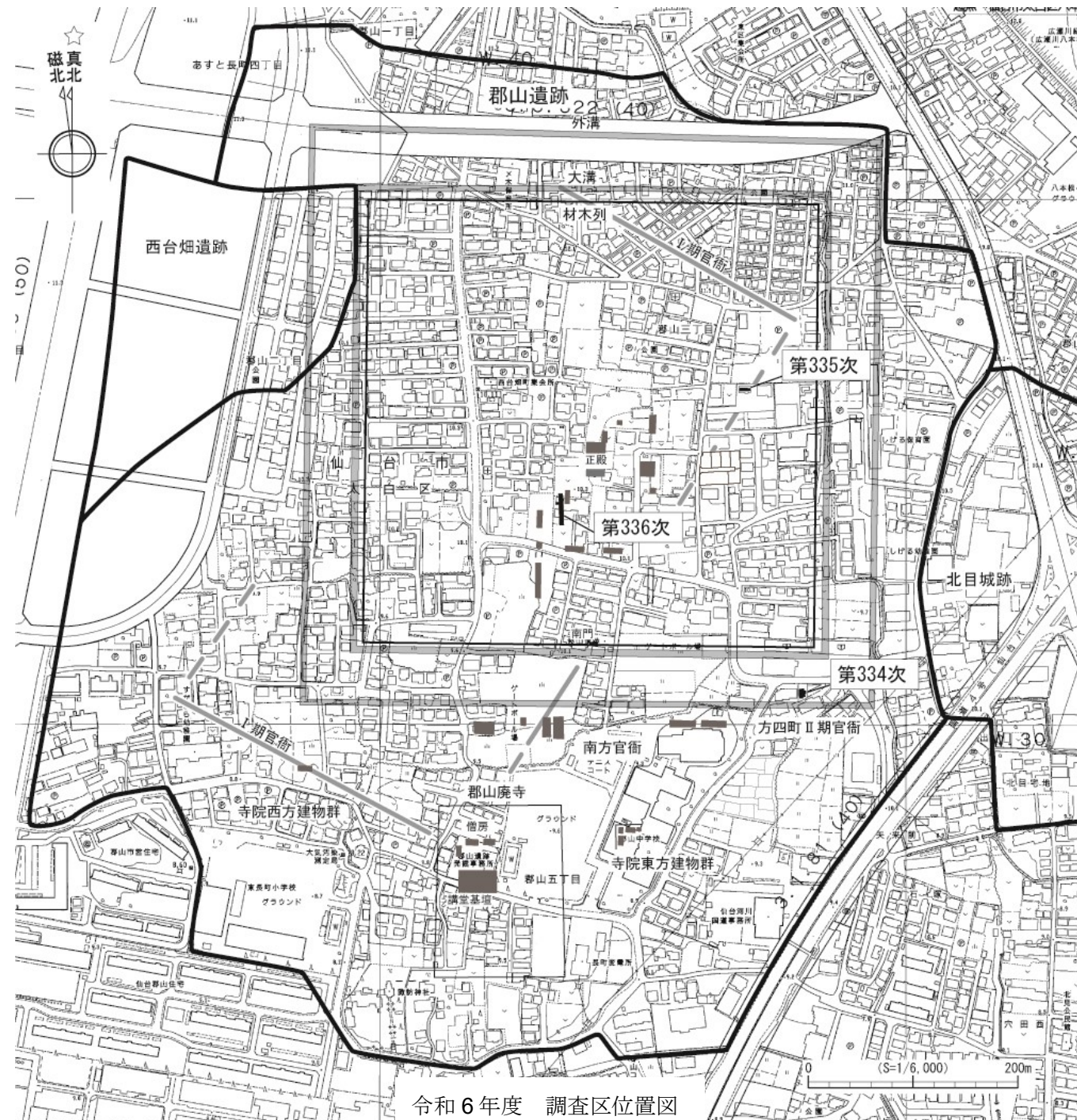


令和6年度 郡山遺跡・陸奥国分寺跡 調査成果概要

調査回数	調査地区	調査面積	調査期間	調査原因	対応
郡山遺跡第334次	方四町Ⅱ期官衙南東部	32.2 m ²	令和6年4月15日～4月25日	建売住宅建築	開発に伴う事前調査
郡山遺跡第335次	Ⅰ期官衙東辺・方四町Ⅱ期官衙東部	29 m ²	令和6年7月1日～7月12日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡第336次	Ⅰ期官衙中央・方四町Ⅱ期官衙中枢部	126 m ²	令和6年10月7日～12月12日	遺構確認	範囲確認調査
陸奥国分寺跡第34次	遺跡北東部	195.9 m ²	令和6年5月14日～8月2日	遺構確認	範囲確認調査



令和6年度 調査区位置図

郡山遺跡第334次調査

1. 調査要項

調査地点 仙台市太白区郡山5丁目地内

調査期間 令和6年4月15日～4月26日

調査原因 建売住宅の建築

調査面積 約32.2 m²

2. 調査概要

調査区はⅡ期官衙の大溝と外溝に挟まれた空間に位置する。調査では掘立柱建物跡1棟と溝跡2条とピット2基が検出された。調査で検出された遺構について主軸方向を見てみると、SB2660掘立柱建物跡とSD2657溝跡はⅠ期官衙の時期の遺構の可能性はある。

SB2660掘立柱建物跡は柱穴が2基検出され、柱穴のうち西側(E2)では柱痕跡が2基検出された。E2は床貼りの建物跡を構成する床束痕跡を伴っていると考えられる。E1では柱痕跡が1基のみであるため、E2が建物跡の身舎部分の北東隅柱穴となり、E1は付属する東面廂の柱痕跡である可能性がある。

SD2657溝跡は上幅3.1m以上、深さ93cmと一定の規模を有し、その位置関係から第75次調査で検出されたSD1083溝跡と同一の遺構と考えられる。南辺を基準とした方位はE-36.56°-SとⅠ期官衙を構成する遺構群と近似する数値である。また、遺構を最終的に埋め戻していると考えられる点もⅠ期官衙の遺構と共通している。また、一定の規模を有することから、区画溝等の機能を持った官衙と関連する遺構の可能性も考えられる。

